

「自然の力を最大限活かして子ども達を育てる 二宮独自の条例と体現する教育体系が必要だ！」

一石ひろ子 令和3年9月議会報告 「令和2年度決算・総括質疑」

21世紀前期から中期を展望する重要な今日、多くの困難を今生きている大人たちが、勇気を奮って何を求めるかで子ども達の未来の世界に、天と地ほどの差が出来ると思います。私は、日本人が本当に真剣に考えなければならない事は、日本が先進国の中で若年層の自殺者数が最も多い国だということです。

またコロナ禍の様々な事実と検証が積み上げられ、この間の人々の行動が正しく評価されるのは果たして何年後なのか。国が、人間が、試される時が来ています。

■ 総括質疑6つのポイント

1. コロナ禍における、子どもたちの成長環境は十分であったか
2. 子どものマスク、ワクチン、科学物質、免疫などの科学的根拠
3. 環境と風景が息づく、山林、山水がつながるまちづくり
4. 若い世代と語り合えるウェブ上の住民会議を持つ
5. 農と食につながる学習プログラムの導入
6. 環境にかかる、二宮独自の計画や条例の制定



総括質疑で用意した原稿全文をはこちらからお読みいただけます。ぜひご一読ください。

台風による崩落。町内の山林整備は喫緊の課題

2021年の台風による町内3ヶ所の崩落現場の工事費の補正予算として、災害対策基金より約6,000万円が上程されました。持続可能な山林整備による植生の健全化と沢・田圃再生による安心安全な里山を次世代に引き継ぐため林業のない町ならではの協働の施策が必要です。国土緑化推進機構、環境再生保全機構の助成金を得て、町内NPO法人は川勾地域で山林保全事業を始めています。クラウド型ふるさと納税等を活用しコロナで増えた地域の若い世代が関わる協働の仕組みを求めました。



吾妻山山頂付近の崩落現場

新庁舎建設は、公民連携の新たなチャレンジを！

文部科学省大学院教育改革支援プログラム認定
国連CoE地方政府PPPセンター

コミュニティの合意形成
2019~2020

東洋大学PPP研究センター 編著

公民連携白書



全国で公共施設等総合管理計画が策定された。しかし、市民の反対や行政の思い込み、説明不足などにより、実行段階に移行できない自治体も多い。そこで、市民の合意形成をメインテーマに、官・民・市民の連携のあり方を取り上げる。

時事通信社

「公民連携白書2019~2020: コミュニティの合意形成」
東洋大学PPP研究センター (著)

町は地域ごとの意見交換を経て2020年の専門家と50人の町民とのワークショップ、シンポジウム、昨年は若い世代へのヒアリング、新たなワークショップ、議会、町民の意見募集と合意形成に努めてきた。私達は未来に向けた力のある合意形成の技術を持っているのか？

人と縁こそ宝。学校再編含め今後の大事業を活かすためにも私達はかつてない鎧を脱いだ公民連携の道を研究しなければなりません。

伝説的な先進事例、「紫波町オガール」を実現したのは若手職員と専門的な経験を持つ若い町民に白羽の矢を当て東洋大学大学院に派遣させたチャレンジからです。

未来に胸を張れる子ども達を育成する町になるために私達は事を成す技術を学び進化しなければなりません。

まちづくり通信
No.113

二宮の環境を守り、子どもたちの未来をつくる



神奈川ネットワーク運動二宮



二宮町議会議員
一石ひろ子



HP



Facebook

一石ひろ子 神奈川ネット

日々の活動を発信中！

発行: 神奈川ネットワーク運動・二宮
二宮町二宮133 TEL 0463(71)5571
Email: ein03stein1649@ozzio.jp

町民主体のサイエンスカフェを開催！ 多角的に論点を共有

厚生労働省のウェブサイトには、新型コロナワクチンの接種後に起きた、多くの副反応の事例が公開されています。サイエンスカフェでは、厚生労働省のウェブサイトのデータのアクセス方法などを共有し、意見交換を行いました。また町内在住の医師より、ワクチンや長期間マスクを着用することについて、人体に与える影響などの解説をしていただきました。

様々なメディアを通し、識者がワクチンやマスクについて解説していますが、子どもへの影響をとりあげている論説は非常に少なく、私たち大人が、子どもたちの心身の健康を守るため、学び、働きかけていかねばなりません。

今後、オンラインも併用することで、全国の識者の方をお招きし、様々な課題に関する学びの場づくりを続けていきます。

● 6月開催 サイエンスカフェ

「コロナワクチン厚労省のサイトを読む」

日時 2021年6月26日(土) 主催: にのみやこども食堂便

● 11月開催 サイエンスカフェ

コロナ禍の子どもたちを守るために~富山大学小児科種市尋宙先生と共に

日時 2021年11月28日(日)

富山市では、医療と教育が連携し、最新の医学的データに基づき、新型コロナウイルス感染症への対策を検討し、推進するため、「富山市立学校新型コロナウイルス感染症対策検討会議」を設置しています。講師に、富山大学小児科種市尋宙先生をお迎えし、会場とオンラインのハイブリッド実施しました。*詳細は次号でご報告します



町内で開催されたサイエンスカフェ。これをきっかけに、平塚、秦野での開催につながっています。



サイエンスカフェとは：

科学技術の分野で従来から行われている講演会、シンポジウムとは異なり、科学の専門家と一般の人々が、カフェなどの比較的小規模な場所でコーヒーを飲みながら、科学について気軽に語り合う場をつくらうという試みです。このサイエンスカフェは、一般市民と科学者・研究者を繋ぎ、科学の社会的な理解を深める新しいコミュニケーションの手法として、世界で注目されている活動です。
*日本学術会議ウェブサイトより引用

厚労省のHPVワクチン勧奨再開にリスク対策を！

厚労省は2020年 勧奨中止中であるにも関わらず各自治体に接種対象者にリーフレット送付するよう通知を出し、すでに接種者が急激に増えています。副反応被害の研究や治療が進まない中、接種推進の強い動きは疑問です。10代の少女たちの未来は長い。接種と補償はセットであり、ワクチンで健康を損なうリスクと治療の研究への注力が必要です。



*HPVワクチン薬害訴訟全国弁護団より
https://www.hpv-yakugai.net/

【仲間募集】神奈川ネットワーク運動・二宮

神奈川ネットワーク運動とは、国中心の政治に対し、地域から市民・女性が作る政治を目指す地域政党です。神奈川県内の13自治体に地域ネットを形成し、県・市・町議会議員がいます。二宮では、仲間を募集しています。いっしょに活動しませんか。

【ミニフォーラムを開きませんか】

ミニフォーラムとは、地域の身近な課題を解決するために、なんとかしたいと思う人たちが中心となって問題を整理し、解決策を探る集会です。地域ネットや議員はこれをサポートします。住民同士の討論、法律などの学習・調査、行政や専門家との情報交換・討論などを経て、解決を図ります。まち作りに参加することの面白さを地域の方々と共有し、民主主義で自治する力をつけていくこと。神奈川ネットの原点ともいえる手法です。ぜひ、私たちにお手伝いさせてください。



のびやかに子どもが育つ、磯のように豊かな環境をわたしたちの町に

子どもたちひとりひとりに向けた応援ができる公教育を求めて

不登校児童生徒が増えています

一人一人事情は違いますが、彼らが発しているサインは決して個人的なものではないと思います。

デンマークの民主主義のあり方を学びましたが、少数派の意見を吟味することの価値は社会全体の力を高めることになるからです。

公立の学校に、包摂する居場所をつくる

イエナプラン日本教育協会代表理事久保令子さんと意見交換会を持ちました。二宮の保護者有志とのオンライン意見交換会で提案された施策で、現在、広島県教育長（保護者代表で図書室の居場所作りを实践された）が県内で動きを起こしている事例を学びました。

その後、様々な先進事例について情報共有を続け、私たちは、各小学校の校長先生に、現場の学校側は、私たちの考えをどう受け止められるか、何度か対話の場を持ってきました。2時間に及ぶ回もありました。私たちは子どもたちを応援する仲間なのだというスタンスの、連帯する場は非常に大事だと痛感しました。行政と住民は、対立型の組織ではない。「鎧を脱いで対話し、落としどころを探す。みんな子どもたちが大好きな人たちのだから」これは、コロナ対策について、教育委員会と新型コロナウイルス対策協議会を立上げられた富山大学小児科講師の種子尋宙先生の言葉です。

校長先生方のお話を聞いて感じるのは、学校は大勢の子どもの対応で精いっぱいということです。毎年二宮町、中地区教職員組合から、国へ少人数学級の要望が出されています。20人クラスなら一人一人を見れるが、それ以上の人数ではとても無理なのです。やはり少人数学級は、国が進めなければならぬ。今の体系の中では、コミュニティスクールがそれを実現する、可能性を持っています。

コミュニティスクールの可能性

二宮町では、町内各校のコミュニティスクール化を進めてきました。子どもはそもそも地域で育てるもの。私たちは学校にすべてを預け過ぎていたともいえるでしょう。個別最適を後押しするのは地域の力が必要ですし、学校外の資源を活かして子どもたちを育てるのは当たり前。それこそ自然の力、人間の力ではないでしょうか。実際、PTA 会長の方や、コミュニティスクールコーディネーターの方が、積極的に子どもたちへのエールの形を实践されています。



学びを活かしてあらたなチャレンジを

二宮町は、川崎市で不登校児ゼロを实践された、吉新一之氏を、教育力向上アドバイザーとして起用しました。吉新氏は、「対話し誰一人取り残さない教育は子供だけでなく先生も癒す。学校の強みは集団にある。」と議会教育福祉常任委員会の勉強会で力説されました。実際、低学年の教室には「包摂の場」が出来ていて感心しました。

議会教育福祉常任委員として、7月に「社会資源を活かした子ども達の居場所」をテーマに、学校内の居場所の実践校である、茅ヶ崎市立浜須賀中学校視察、星槎学園、町内フリースクール「とどまる学園」+教育委員会「やまびこ」の状況とニーズを聞き取り改革の方向性を研究しています。

一方、前校長で教育委員でもあった原道子先生が「はぐくみみ塾」とともに注力された「発達支援教室」では、研究者星山先生と、継続的な講座での学びを、関心のある保護者の方々に広めました。その学びを活かして、二宮の社会実験場である東大果樹園跡地・みらいはらっぱで、さらなるチャレンジも同時進行で起こりつつあります。

二宮スタイルの教育は、行政も住民も議会も多角的に、しかも包摂的に進みつつあります。議会が推進力に資するよう研究します。

子どもたちを真中に未来にむけて～コロナ下の飛ぶ教室 エコフェスタにのみや「ぼくたちわたしたちの地球会議」



● ぼくたちわたしたちの地球会議

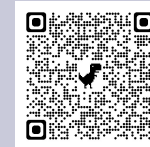
コロナ禍17人の子どもリポーターが少人数のチームを組んでが町内の環境団体活動現場取材しラディアンホールで発表しました。

子どもたちがつなぐ環境団体

「子どもと大人がすみ分けせずに、子ども達が考えることを真ん中に、社会を変える力を持つ」中学生、若者からのメッセージが響きました。二宮町は今後の総合計画や環境基本計画策定にも子どもたちを参加させると記者発表しました。

● 第16回 エコフェスタ2021

日時 2021年5月14日、14日
場所 ラディアン
内容 町内の環境関連団体の活動展示等
共催 環境づくりフォーラム、二宮町
後援 二宮町教育委員会



エコフェスタの様子はこちらからご覧になれます
(二宮町ホームページ)

ぼくたちわたしたちの地球会議



Website



Youtube



Facebook

二宮の竹から生まれた、ザトウクジラの赤ちゃんが人と自然の共生を訴える



●クジラに学ぶヒトと環境との関係

日時 2021年8月14日 (土)
場所 ラディアン
講師 加藤秀弘氏
国立大学法人東京海洋大学名助教授
二宮町在住
共催 環境づくりフォーラム、二宮町
後援 二宮町教育委員会



クジラの模型制作レポートはこちらをご覧ください。

エコフェスタの一環として開催された、講演会に併せて、町内在住の芸術家や建築家の有志が集まり、ザトウクジラと海をテーマに、子どもを真ん中にしたワークショップを開催。会場は、一軒家を居場所として運営する「太郎の家」(妙見)。7メートルに迫る作品は、ラディアンホールの舞台と展示ギャラリーでお披露目され、注目を集めました。

子どもたちが自然の力を最大限引き出して、生きることを支える「生きる力を育む」場になるよう連帯の輪を広げたい

東京大学果樹園跡地では、令和2年に整備されたドッグランと芝生の区域が、「みらいはらっぱ」と名付けられ、待ちに待った民間企業によるシェアスペース事業が始まりました。

二宮町に暮らす多様な世代が、あらたに生まれる様々な機能(シェアスペース)を活用することで、つながり・出会い・チャレンジする(自己実現の)場を生み出します。



私立の学校法人「きのくに子どもの村学園」に迫ったドキュメンタリー映画。自己決定、個性化、探求学習の原則を大切にしている。2022年2月公開。



映画「夢見る小学校」
https://www.dreaming-school.com/

イエナプラン教育とは

現在、広島県、長野県を中心に学校教育の脱画一化を図る教育方法で、オランダで広く実践されている。異年齢少人数クラス、ワールドオリエンテーションという授業が特徴的。オランダ、フィンランド等北欧諸国は、戦後教育の大転換に成功。現在国民の幸福度やGDPの高水準で成果が目撃される。